

楽しい餅つき

今年もこの季節がやってきました12月7日(水)、十社小学校の3、4年生が、地域の人たちと一緒に餅つきを行いました。自分たちが5月に田植えし、9月に収穫したもち米を使いました。米が炊き上がり、餅つき開始。「重いー!」ときねの重さに苦戦しつつも、地域の人に手伝ってもらいながら、児童たちは一生懸命餅をついていました。餅をつき終わったら、今度は食べやすいサイズに丸めます。児童たちは、「きなこで食べよー!」「僕はしょうゆで食べるー!」と、どうやって餅を食べるか考えながら、楽しそうに作っていました。完成した餅を、パックに詰めて、持ち帰ってから食べました。



1. みんなで「よいしょー!」と掛け声を出しながら餅をつく 2. 誰がきれいに丸められるか勝負 3. 自慢の餅を片手にポーズ!

それぞれ、お目当ての店舗に並ぶ来場者



3年ぶりの「新そば祭り」

大盛況! 約2,000人が来場
11月27日(日)、市役所前広場で「第11回いなべの里新そば祭り」を開催し、5店舗が出店しました。開店時は250人以上の長蛇の列が。いなべ産のそば粉を使った手打ちそばの味に、初めて来場した人は「いなべに越してきて、そばが有名なことは知っていた。初めて食べられて、すごくおいしかった」と楽しんでいました。午後には全てのそばが完売するほど、大盛況のそば祭りでした。

1. 利用者によって色の配分が変わる 2. 作業に集中



うさぎ年に向けて製作

色とりどりのぬいぐるみ
12月12日(月)、いなべ市大障害者活動支援センターで、利用者たちが2023年のえとであるうさぎのぬいぐるみの製作に励んでいました。センターの利用者が一つ一つ織ったさをり織りで作られるぬいぐるみは、市外からも予約が入るほど好評です。毎年、100個ほど製作されます。利用者の下田勇次さんはさをり織りについて、「楽しい」と話していました。ぬいぐるみについての問い合わせ ☎ 88-0612

完成した作品でも「ここをこうしておけば」と常に改善点を探す



黄綬褒章を受賞

熟練の宮大工の技術が評価されました
秋の叙勲で、北勢町平野新田の渡辺敏文さんが受賞されました。渡辺さんは、中学校卒業後に大工として経験を積んだ後、宮大工へ転向。これまで地域を中心に社寺建築や祭り屋台、山車の制作を手掛けてきました。「多くの宮大工の中から選ばれて光栄。これをきっかけに、業界の後継者不足の問題などにも光が当たるよう取り組んでいきたい」と話してくれました。

リレーをモチーフに、バトンで「つなぐ」を表現



イルミネーション点灯式

今年もキラキラと冬を彩ります
12月1日(木)、トヨタ車体㈱いなべ工場で、イルミネーションの点灯式が開催されました。これは、企業と地域住民との交流の一環として行われています。12回目となる今年のテーマは「つなぐ」。10万個以上の電球が使用されており、色鮮やかにライトアップされた景色はとても魅力的です。2月3日(金)までの期間中、誰でも自由に見学することができます。

コロナ禍で生まれた差別を防ぐ取り組みの象徴「シトラスリボン」作り



みんながって、みんないい

全校生徒が人権フォーラムで学びました
11月30日(水)、北勢中学校で人権フォーラムが開かれました。「いなべ人権のまちづくりを進める会」の葛山博次さんは講話の中で、生徒たちに金子みすゞの詩を読み上げ、「相手を理解すれば、すばらしい社会ができる」と伝えていました。講話の後、生徒たちは同会のメンバーに教わりながら、シトラスリボン作りを体験しました。3年生の岡俊輝さんは「みんなで助け合う社会になれば」と話していました。

認知症を支援する証しである「オレンジリング」が配られました



認知症を学ぼう

失敗したことを責めずに、良いところを探そう
12月2日(金)、笠間小学校の4年生が認知症キッズサポーター養成講座を受けました。社会福祉協議会の職員を講師に迎え、認知症への理解を深めました。講師から「まわりの人が手助けすることで、認知症の人が安心して暮らせます。自分にできることで助け合いましょう」と伝えられました。遠藤希夏さんは「楽しく学びました。手助けしたいと思いました」と話していました。